



# BEA AquaLogic™ Interaction Analytics

管理者用ガイド

バージョン 2.0  
ドキュメントの改訂：2006 年 9 月 1 日



# Copyright

Copyright © 1995-2006 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

## Restricted Rights Legend

This software is protected by copyright, and may be protected by patent laws. No copying or other use of this software is permitted unless you have entered into a license agreement with BEA authorizing such use. This document is protected by copyright and may not be copied, photocopied, reproduced, translated, or reduced to any electronic medium or machine readable form, in whole or in part, without prior consent, in writing, from BEA Systems, Inc.

Information in this document is subject to change without notice and does not represent a commitment on the part of BEA Systems. THE DOCUMENTATION IS PROVIDED “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. FURTHER, BEA SYSTEMS DOES NOT WARRANT, GUARANTEE, OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE USE, OR THE RESULTS OF THE USE, OF THE DOCUMENT IN TERMS OF CORRECTNESS, ACCURACY, RELIABILITY, OR OTHERWISE.

## Trademarks and Service Marks

Copyright © 1995-2005 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved. BEA, BEA JRockit, BEA WebLogic Portal, BEA WebLogic Server, BEA WebLogic Workshop, Built on BEA, Jolt, JoltBeans, SteelThread, Top End, Tuxedo, and WebLogic are registered trademarks of BEA Systems, Inc. BEA AquaLogic, BEA AquaLogic Data Services Platform, BEA AquaLogic Enterprise Security, BEA AquaLogic Service Bus, BEA AquaLogic Service Registry, BEA Builder, BEA Campaign Manager for WebLogic, BEA eLink, BEA Liquid Data for WebLogic, BEA Manager, BEA MessageQ, BEA WebLogic Commerce Server, BEA WebLogic Communications Platform, BEA WebLogic Enterprise, BEA WebLogic Enterprise Platform, BEA WebLogic Enterprise Security, BEA WebLogic Express, BEA WebLogic Integration, BEA WebLogic Java Adapter for Mainframe, BEA WebLogic JDriver, BEA WebLogic Log Central, BEA WebLogic Network Gatekeeper, BEA WebLogic Personalization Server, BEA WebLogic Personal Messaging API, BEA WebLogic Platform, BEA WebLogic Portlets for Groupware Integration, BEA WebLogic Server Process Edition, BEA WebLogic SIP Server, BEA WebLogic WorkGroup Edition, Dev2Dev, Liquid Computing, and Think Liquid are trademarks of BEA Systems, Inc. BEA Mission Critical Support, BEA Mission Critical Support Continuum, and BEA SOA Self Assessment are service marks of BEA Systems, Inc.

All other names and marks are property of their respective owners.



# 目次

## 1. ようこそ

このマニュアルの使用方法 .....	1-1
対象ユーザー .....	1-1
記述方法 .....	1-2
BEA のドキュメントおよびリソース .....	1-3

## 2. Analytics の概要

Analytics のコンポーネント .....	2-2
--------------------------	-----

## 3. Analytics レポートの活用方法

Analytics レポートの概要 .....	3-1
Analytics レポートのアクセス方法 .....	3-8
Analytics レポートのセキュリティの管理 .....	3-9
Analytics ポートレットの作成 .....	3-10
Analytics の活用方法 - 高度なヒントとテクニック .....	3-10
ヒントとテクニック - Analytics レポートを効果的に活用する .....	3-10
ヒントとテクニック - ポータルの利用状況の追跡を最大限に活用する .....	3-12

## 4. Analytics Administration の使用

Analytics Administration へのアクセス .....	4-1
Analytics Administration の使用 .....	4-2
実行時設定 .....	4-2
セキュリティ設定 .....	4-5
スーパー ユーザー役割 .....	4-5
機能 .....	4-6
パーティション設定 .....	4-7
スクロール ビュー ウィンドウの活用 .....	4-8

パーティションのプレビュー.....	4-8
イベントの登録.....	4-9
イベント登録の概要.....	4-9
イベント、イベント パラメータ、ディメンションの概要.....	4-10
カスタム ディメンションの作成.....	4-10
イベントの作成.....	4-11
イベント名.....	4-11
テーブル名.....	4-11
パラメータ名.....	4-11
既定のパラメータ.....	4-12
イベント データの保存.....	4-12
イベント データの保存の停止.....	4-13
Analytics Administration へのアクセスの制限.....	4-13

## 5. Analytics データベースの管理

Analytics データベースのサイジング.....	5-1
Analytics データベースのデータ量増加の概要.....	5-2
ファクト テーブルのデータ量の増加.....	5-2
ディメンション テーブルのデータ量の増加.....	5-3
ポートレット ビュー データの制限.....	5-3
Analytics データベース (Oracle) のチューニング.....	5-4
既定のファクト テーブルの活用.....	5-5
パーティションのアーカイブおよび復元.....	5-6

## 6. Analytics 同期

Analytics 同期の概要.....	6-1
同期されるディメンション データと関連ジョブ.....	6-2
強制同期の実行.....	6-5
すべてのディメンション データの強制同期の実行.....	6-5
単一オブジェクトのディメンション データの強制同期の実行.....	6-5
戦略的な同期スケジュール設定.....	6-6

## A. トラブルシューティング

ログの概要 .....	A-2
実行時の一般的な問題のトラブルシューティング .....	A-4

## 索引





# ようこそ

このマニュアルでは、BEA AquaLogic Interaction Analytics (「Analytics」) 2.0. の管理作業の実施方法について説明します。

**注意：**「BEA AquaLogic Interaction Analytics」の旧称は「Plumtree Analytics」です。ただし、このマニュアルでは、ポータル オブジェクトの名前が以前の Plumtree 名のままになっている場合があります。また、ポータルのインストール パスの例に、BEA ディレクトリではなく Plumtree ディレクトリが含まれている場合もあります。

## このマニュアルの使用方法

### 対象ユーザー

このマニュアルは、Analytics レポートの設定、Analytics データベースの操作、Analytics システムの管理を担当する Analytics 管理者を対象にしています。

# 記述方法

このマニュアルでは、以下の記述方法を使用します。

表 1-1 記述方法

項目	記述方法	例
<ul style="list-style-type: none"><li>ファイル名</li><li>フォルダ名</li><li>画面要素</li></ul>	太字	<ul style="list-style-type: none"><li><b>Procedures.doc</b> をポータルにアップロードします。</li><li><b>General</b> フォルダを開きます。</li><li>変更内容を保存するには、[ <b>変更を適用</b> ] をクリックします。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>入力するテキスト</li></ul>	コンピュータ フォント	<ul style="list-style-type: none"><li>コミュニティの名前に Marketing と入力します。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>入力する変数</li></ul>	コンピュータ フォント、斜 め体	<ul style="list-style-type: none"><li>ポートレット サーバーのベース URL を入力してください。例: http://my_computer/。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>ポータル オブジェクト名の例</li></ul>	斜め体	<ul style="list-style-type: none"><li>図 5 のナレッジ ディレクトリの例は、<i>Human Resources</i> フォルダです。</li></ul>

# BEA のドキュメントおよびリソース

この節では、BEA が提供しているドキュメントとリソースについて説明します。

**表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース ( 3 の 1 )**


リソース名	説明
インストールおよびアップグレードガイド	Analytics 管理者用のマニュアルです。Analytics のインストール方法およびアップグレード方法について説明しています。 リリース パッケージおよび <a href="https://edocs.beasys.co.jp/e-docs">edocs.beasys.co.jp/e-docs</a> から電子形式 (PDF) で入手できます。
リリース ノート	Analytics 管理者用のファイルです。そのリリースに含まれている新しい機能や既知の問題に関する情報が含まれています。 <a href="https://edocs.beasys.co.jp/e-docs/">edocs.beasys.co.jp/e-docs/</a> から電子形式 (HTML) で入手できます。
開発者用ガイド、記事、API 関連資料、ブログ、ニュースグループ、およびサンプル コード	これらの開発者用リソースは、BEA dev2dev サイト ( <a href="https://www.beasys.co.jp/dev2dev/">www.beasys.co.jp/dev2dev/</a> ) から入手できます。AquaLogic User Interaction を使用してカスタム アプリケーションを構築する方法や、AquaLogic User Interaction 製品およびその機能をカスタマイズする方法について説明しています。
導入ガイド	ビジネス アナリストやシステム管理者向けの資料です。BEA AquaLogic User Interaction の導入計画の策定方法について説明しています。 <a href="https://edocs.beasys.co.jp/e-docs/">edocs.beasys.co.jp/e-docs/</a> から電子形式 (PDF) で入手できます。
オンライン ヘルプ	オンライン ヘルプは、すべてのレベルの Analytics ユーザーが利用できます。Analytics のユーザー インタフェースの説明、およびコンソールやポータルで作業を行うための詳細手順が記載されています。 オンライン ヘルプにアクセスするには、ポータル バナーまたはコンソール ページの右上の端に表示されている  [ ヘルプ ] をクリックしてください。

表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース ( 3 の 2 )

リソース名	説明
AquaLogic User Interaction Support Center	<p>AquaLogic User Interaction Support Center は、AquaLogic User Interaction 製品に関する技術情報の総合的なリポジトリです。Support Center では、製品やドキュメントへのアクセス、ナレッジベースの記事の検索、最新のニュースや情報の参照、サポート コミュニティへの参加、トレーニングの受講、AquaLogic User Interaction 関連のニーズに適合するツールの入手を行うことができます。Support Center には次のコミュニティが含まれています。</p> <p><b>Technical Support Center</b></p> <p>サポート問題や機能要求の提出および追跡、ナレッジベースの検索、資料の入手、サービスパックおよびホットフィックスのダウンロード等を行うことができます。</p> <p><b>News &amp; Events</b></p> <p>News &amp; Events Center は、導入の展開に関する情報を提供します。Super User Group ページでは、他の開発者と情報交換したり、最新のミーティング内容を表示したりできます。</p> <p><b>Product Center</b></p> <p>製品のダウンロード、リリースノートの参照、最新の製品資料の入手、インターオペラビリティに関する情報の入手などが可能です。</p> <p><b>Education Center</b></p> <p>トレーニングコースに関する情報の入手、トレーニングクレジットの購入、受講するための登録を行うことができます。</p> <p>次のサイトにログインしても Support Center が表示されない場合は、アクセス権を得るために <a href="mailto:support-alui.jp@bea.com">support-alui.jp@bea.com</a> にお問い合わせください。  <a href="http://portal.plumtree.com">http://portal.plumtree.com</a></p>

表 1-2 BEA のドキュメントおよびリソース ( 3 の 3 )

リソース名	説明										
www.beasys.co.jp/dev2dev/	開発者用のツールや資料をダウンロードしたり、開発プロジェクトに対してサポートを得たり、BEA の dev2dev ニュースグループを通じて他の開発者と連絡を取ることができます。										
技術サポート	<p>上記のリソースを使用しても問題を解決できない場合は、BEA 技術サポートにお問い合わせください。弊社のスタッフが、24 時間 365 日体制でお客様の技術サポート ニーズに対応致します。</p> <p>電子メール: <a href="mailto:support-alui.jp@bea.com">support-alui.jp@bea.com</a></p> <p>電話番号:</p> <table> <tr> <td>米国およびカナダ</td><td>+1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)</td></tr> <tr> <td>アジア パシフィック</td><td>+61 2.9931.7822</td></tr> <tr> <td>ヨーロッパおよび英国</td><td>+44 (0)1628 589124</td></tr> <tr> <td>フランス</td><td>+33 1.46.91.86.79</td></tr> <tr> <td>シンガポール</td><td>+65 6832.7747</td></tr> </table>	米国およびカナダ	+1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)	アジア パシフィック	+61 2.9931.7822	ヨーロッパおよび英国	+44 (0)1628 589124	フランス	+33 1.46.91.86.79	シンガポール	+65 6832.7747
米国およびカナダ	+1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)										
アジア パシフィック	+61 2.9931.7822										
ヨーロッパおよび英国	+44 (0)1628 589124										
フランス	+33 1.46.91.86.79										
シンガポール	+65 6832.7747										

ようこそ

# Analytics の概要

ポータル管理者やビジネス オーナーは、Analytics を使用することで、ポータルの利用情報を追跡したり分析したりできます。Analytics が提供する基本機能は以下のとおりです。

- **利用状況の追跡のためのメトリクス** : Analytics では、コミュニティ、ポートレット、ドキュメントへのアクセス数など、一般的なポータル機能のメトリクスを収集し、レポートを生成できます。
- **ユーザーの行動の追跡** : Analytics レポートのユーザーは、ポータル メトリクスを分析し、ポータルへの訪問時間、時間の経過に伴う利用状況の変化など、さまざまな利用パターンを識別できます。
- **ユーザー プロファイルとの関連付け** : Analytics レポートのユーザーは、メトリクス情報をユーザー プロファイル情報に関連付けることができます。これにより、利用状況の追跡レポートを、国、企業、部門などのプロフィール データ別に表示したりフィルタしたりできます。
- **カスタム イベントの追跡** : ポータルの管理者および開発者は、OpenUsage API で Analytics に送信されるカスタムのポータル イベントおよび非ポータル イベントを登録できます。イベント データは Analytics データベースに保存され、ポータル アプリケーションや非ポータル アプリケーション用のレポート生成時に検索できます。

OpenUsage API の使用方法の詳細については、「Using the AquaLogic Interaction Analytics OpenUsage API」

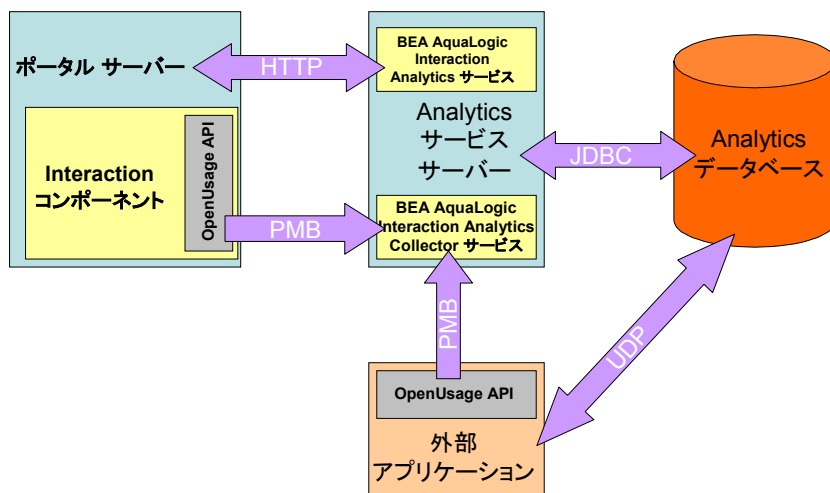
(<http://dev2dev.bea.com/pub/a/2006/08/openusage-analytics.html>) を参照してください。

**注意** : Analytics のカスタム イベント追跡機能を使用するためには、スター スキーマ構造データベースの概念を理解している必要があります。

## Analytics のコンポーネント

Analytics は、以下のコンポーネントで構成されています。

図 2-1 Analytics のアーキテクチャ





次の表に、Analytics のコンポーネントをまとめます。Analytics で使用するポートの一覧については、『BEA AquaLogic Interaction Analytics インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。

**表 2-1 Analytics のコンポーネント**

コンポーネント	説明
Interaction コンポーネント	<p>Interaction コンポーネントは、ポータルの利用状況を追跡するためのメトリクスを収集します。ポータルをホストするサーバーと同じサーバーにインストールされます。Interaction コンポーネントのインストールの詳細については、『BEA AquaLogic Interaction Analytics インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。</p>
OpenUsage API	<p>OpenUsage API は、以下のメトリクスを、PMB (Portal Message Bus) を使用して BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector サービスに送信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用状況の追跡のためのメトリクス</li> <li>• カスタムのポータルおよび非ポータル イベント</li> </ul> <p>OpenUsage API の使用方法の詳細については、「Using the AquaLogic Interaction Analytics OpenUsage API」(<a href="http://dev2dev.bea.com/pub/a/2006/08/openusage-analytics.html">http://dev2dev.bea.com/pub/a/2006/08/openusage-analytics.html</a>) を参照してください。</p>
Analytics サービス	<p>以下の Analytics サービスは、スタンドアロン サーバーにインストールされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector サービスは、Interaction コンポーネントからデータを受信し、AquaLogic Interaction 開発キット (「IDK」) を使用してポータル データベースからデータを収集します。</li> <li>• BEA AquaLogic Interaction Analytics サービスは、Analytics Console、または Analytics ポートレット テンプレートから作成したポータルを介して、エンド ユーザーに Analytics データを提供します。</li> </ul> <p>Analytics サービスのインストールの詳細については、『BEA AquaLogic Interaction Analytics インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。</p>

## Analytics の概要

**表 2-1 Analytics のコンポーネント**

コンポーネント	説明
Image Service コンポーネント (図には表示されていません)	Image Service を提供します。また、Analytics を実行するうえで必要なファイルも提供します。Image Service コンポーネントのインストールの詳細については、『BEA AquaLogic Interaction Analytics インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。
Automation Service コンポーネント (図には表示されていません)	Automation Service を提供します。また、Analytics とポータルを同期させるために必要なジョブも提供します。Automation Service コンポーネントのインストールの詳細については、『BEA AquaLogic Interaction Analytics インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。
Analytics データベース	Analytics データベース コンポーネントは、カスタムのポータルおよび非ポータル イベントから収集したメトリクス用のストレージを提供します。Analytics データベースの設定の詳細については、『BEA AquaLogic Interaction Analytics インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。

# Analytics レポートの活用方法

この章では、Analytics レポートを使用および分析する方法、ポートレットを作成する方法、必要な追跡が行えるようにポータルを設定する方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [Analytics レポートの概要](#)
- [Analytics レポートのアクセス方法](#)
- [Analytics レポートのセキュリティの管理](#)
- [Analytics ポートレットの作成](#)
- [Analytics の活用方法 - 高度なヒントとテクニック](#)

## Analytics レポートの概要

この節では、Analytics が提供するレポートについて説明します。Analytics レポートの高度なヒントとテクニックについては、[3-10 ページの「ヒントとテクニック - Analytics レポートを効果的に活用する」](#)を参照してください。

次の表に、Analytics が提供するレポートをまとめます。

## Analytics レポートの活用方法

表 3-1 Analytics レポートの説明

Analytics レポート	説明
Summary Metrics - トラフィック	トラフィック コンソール ページには、ポータル内で発生する一般的なイベントのメトリクスが表示されます。表示されるイベントとしては、コミュニティ ページ ビュー、マイ ページ ビュー、検索イベント、ディレクトリ ドキュメント ビュー、Collaboration ドキュメント ビュー、コンテンツ アイテム ビュー、ディレクトリ ビューなどがあります。
Summary Metrics - ページ	<p>ページ コンソール ページには、マイ ページ ビューとコミュニティ ページ ビューの集計が表示されます。このレポートは、ポータル内で訪問数が多いページ (上位ページ)、訪問数が少ないページ (下位ページ)、訪問において最初にアクセスされることが多いページ、訪問において最後のページになることが多いページ、などの情報を提供します。</p> <p>これらのデータは、ヒット数 (ページ ビューの総数) 別に集計したり、ユーザー数 (ページを表示したユニーク ユーザーの数) 別に集計したりできます。レポートをフィルタして、特定のコミュニティからのページのみが表示されるようにすることも可能です。なお、レポートにマイ ページ ビューが含まれている場合、各ユーザーのマイ ページ ビューは、集約されて 1 ページとしてカウントされています。</p>
Summary Metrics - ユーザー数	ユーザー数コンソール ページには、ユーザーの総数、追加されたユーザーの数、アクティブ ユーザーおよび非アクティブ ユーザーの数が表示されます。アクティブ ユーザーとは、アクティブ ユーザー タイムアウトの期限内にポータルにログインしたユーザーです。アクティブ ユーザー タイムアウトは、Analytics 管理ユーティリティを使用して調整できます。詳細については、 <a href="#">4.2 ページの「実行時設定」</a> を参照してください。
Summary Metrics - ログイン数	ログイン数コンソール ページには、ポータルへのログイン回数が表示されます。ユーザーがホーム ページで <b>[ このパスワードを保存する ]</b> を選択していて自動的にログインした場合でも、1 回のログインとしてカウントされます。このデータは、ログイン数 (ポータルへのログイン総数) 別に集計したり、ユーザー (ポータルにログインしたユニーク ユーザー) 別に集計したりできます。

表 3-1 Analytics レポートの説明

Analytics レポート	説明
Summary Metrics - 期間	<p>期間コンソール ページには、ポータルへのすべての訪問の最大時間や平均時間が表示されます。ポータルへの訪問時間とは、ユーザーがポータルにログインした時点から、ユーザーがログアウトまたは再度ログインするか、訪問タイムアウトを超過するまでの時間です。セッション タイムアウトではなく訪問タイムアウトを使用する理由は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セッション タイムアウトは、インフラストラクチャ上の理由から長めに設定されることがあるため</li> <li>ユーザーのアクティビティがなくなった場合に、その後数分でポータルへの訪問が終了したと見なせるようにするため</li> </ul> <p>たとえば、ユーザーのアクティビティが 3 分以上なければ、ポータルを「もう使用していない」と見なすのが自然です。したがって、そのユーザーが再度ポータル内のリンクをクリックしたりページを更新したときには、これを新しい訪問として追跡します。</p> <p>訪問タイムアウトは、Analytics 管理ユーティリティを使用して設定できます。詳細については、<a href="#">4-2 ページの「実行時設定」</a>を参照してください。</p>
Community Metrics - トラフィック	<p>コミュニティ トラフィック コンソール ページには、コミュニティ ページ ビューに関するデータが表示されます。このレポートは、表示回数が多いコミュニティ (上位コミュニティ)、表示回数が少ないコミュニティ (下位コミュニティ)、すべてのコミュニティ (表形式でのみ表示可)、選択したコミュニティ、などの情報を提供します。</p> <p>このレポートのデータは、ヒット数 (ページ ビュー) 別、訪問数 (1 つのコミュニティ内での連続したページ ビュー) 別、ユーザー (選択したコミュニティ内のページにアクセスしたユニーク ユーザー) 別に表示できます。</p>

**表 3-1 Analytics レポートの説明**

Analytics レポート	説明
Community Metrics - 応答時間	<p>応答時間コンソール ページには、ポータル サーバーがコミュニティ ページの要求を受信してから、ユーザーに応答を送信するまでに経過した時間が表示されます。この追跡はポータルサーバー上で行われるため、応答がユーザーのマシンに届いてブラウザに表示されるまでの経過時間は含まれません。</p> <p>このレポートは、応答時間が短いコミュニティ (上位コミュニティ)、応答時間が長いコミュニティ (下位コミュニティ)、すべてのコミュニティ (表形式でのみ表示可)、選択したコミュニティ、などの情報を提供します。このレポートには、最長応答時間、平均応答時間、および最短応答時間が表示されます。</p>
Portlet Metrics - 使用率	<p>ポートレット使用率コンソール ページには、ポートレット内でのクリックに関するデータが表示されます。Analytics では、ポートレット内のゲートウェイされたボタンやリンクのユーザー クリックを追跡できます。</p> <p>このレポートは、使用回数が多いポートレット (上位ポートレット)、使用回数が少ないポートレット (下位ポートレット)、すべてのポートレット (表形式でのみ表示可)、選択したポートレット、選択したコミュニティ内のポートレット、などの情報を提供します。このレポートのデータは、アクティビティ (ポートレット クリック) 別に表示したり、ユーザー (選択したポートレットを使用したユニーク ユーザー) 別に表示したりできます。</p>

表 3-1 Analytics レポートの説明

Analytics レポート	説明
Portlet Metrics - ビュー	<p>ポートレット ビュー コンソール ページでは、ポータル内でポートレットが表示された回数を追跡できます。この場合、あるページが表示されるたびに、そのページ上のすべてのポートレットが表示されたものとしてカウントされます。</p> <p>このレポートは、表示回数が多いポートレット (上位ポートレット)、表示回数が少ないポートレット (下位ポートレット)、すべてのポートレット (表形式でのみ表示可)、選択したポートレット、選択したコミュニティ内のポートレット、などの情報を提供します。このレポートのデータは、ビュー別に表示したり、ユーザー (選択したポートレットを表示したユニーク ユーザー) 別に表示したりできます。</p> <p><b>注意：</b> ポートレット ビュー データは、Analytics がバージョン 5.0.4J、5.0.5J、または 6.0 のポータル (UNIX および Windows) で動作している場合にのみ表示されます。</p>
Portlet Metrics - 応答時間	<p>応答時間コンソール ページには、ポータルがポートレットの要求を送信してから、リモート サーバーがポートレット コンテンツを格納した応答を返すまでに経過した時間が表示されます。このレポートが重要な理由は、コミュニティ ページの応答時間が、そのページで最も時間のかかるポートレットの応答時間と等しくなるのが普通であるためです。したがって、時間のかかるコミュニティをトラブルシューティングする際は、最も時間のかかるポートレットを特定することが重要です。この追跡はポータル サーバー上で行われるため、応答がユーザーのマシンに届いてブラウザに表示されるまでの経過時間は含まれません。</p> <p>このレポートは、応答時間が短いポートレット (上位ポートレット)、応答時間が長いポートレット (下位ポートレット)、すべてのポートレット (表形式でのみ表示可)、選択したポートレット、選択したコミュニティ内のポートレット、などの情報を提供します。このレポートには、最長応答時間、平均応答時間、および最短応答時間が表示されます。</p> <p><b>注意：</b> 応答時間データは、Analytics がバージョン 5.0.4J、5.0.5J、または 6.0 のポータル (UNIX および Windows) で動作している場合にのみ表示されます。</p>

表 3-1 Analytics レポートの説明

Analytics レポート	説明
Other Metrics - 検索	<p>検索コンソール ページでは、ポータル検索を追跡できます。</p> <p>このレポートには、検索回数の多い語句が表示されます。検索語句ごとに、検索が実行された回数と検索が破棄された回数も表示されます。破棄された検索とは、ユーザーが検索結果から何も選択しなかった場合です。レポートには、検索語句ごとに、ユーザーがどのドキュメントをクリックしたかも表示されます。また、検索結果が 0 件だった検索に関する情報も提供します。</p> <p>各検索語句の <b>[Details]</b> リンクをクリックすると、検索結果ページから開かれたドキュメントの名前が表示されます。</p> <p><b>注意：</b>「Other Metrics - 検索」レポートに、破棄された検索結果、検索結果が 0 件だった検索、および <b>[Details]</b> リンクが表示されるのは、Analytics が Plumtree Foundation 6.0 上で動作している場合のみです。</p>
Other Metrics - ドキュメント	<p>ドキュメント コンソール ページでは、ナレッジディレクトリのドキュメント ビューを追跡できます。ドキュメント ビューには、ディレクトリから開かれた場合と、検索結果ページから開かれた場合が含まれます。また、ドキュメントがスナップショット ポートレットやリンク ポートレットから開かれた場合と、ゲートウェイされたドキュメント リンクを含むカスタム ポートレットから開かれた場合も、ドキュメント ビューとしてカウントされます。</p> <p>このレポートには、ポータル内で表示回数の多いドキュメントが表示されます。また、特定のフォルダ (または特定のフォルダとそのサブフォルダ) に含まれているすべてのドキュメントのドキュメント ビューを表示することもできます。</p>



表 3-1 Analytics レポートの説明

Analytics レポート	説明
Other Metrics - プロジェクト	<p>プロジェクト コンソール ページには、AquaLogic Interaction Collaboration のメトリクスが表示されます。表示されるメトリクスは、ドキュメント ビュー、新規のドキュメントおよびディスカッション投稿です。</p> <p>これら 3 つのメトリクスを使用して、トラフィックが多いプロジェクト (上位プロジェクト)、トラフィックが少ないプロジェクト (下位プロジェクト)、すべてのプロジェクト (表形式でのみ表示可)、選択したプロジェクト、などの情報を把握できます。</p>
Other Metrics - コンテンツ アイテム	<p>コンテンツ アイテム コンソール ページでは、AquaLogic Interaction Publisher のコンテンツ アイテム ビューを追跡できます。コンテンツ アイテム ビューとは、ユーザーが Publisher ポートレット内から発行済みコンテンツ アイテムを表示した回数です。</p> <p>このレポートは、表示回数が多いコンテンツ アイテム (上位コンテンツ アイテム)、表示回数が少ないコンテンツ アイテム (下位コンテンツ アイテム)、などの情報を提供します。また、特定のフォルダ (または特定のフォルダとそのサブフォルダ) 内でのコンテンツ アイテム ビューを表示することもできます。コンテンツ アイテム ビューは、Publisher エクスプローラのフォルダ別に集計されます。</p>

# Analytics レポートのアクセス方法

Analytics レポートにアクセスするには、次の手順に従います。

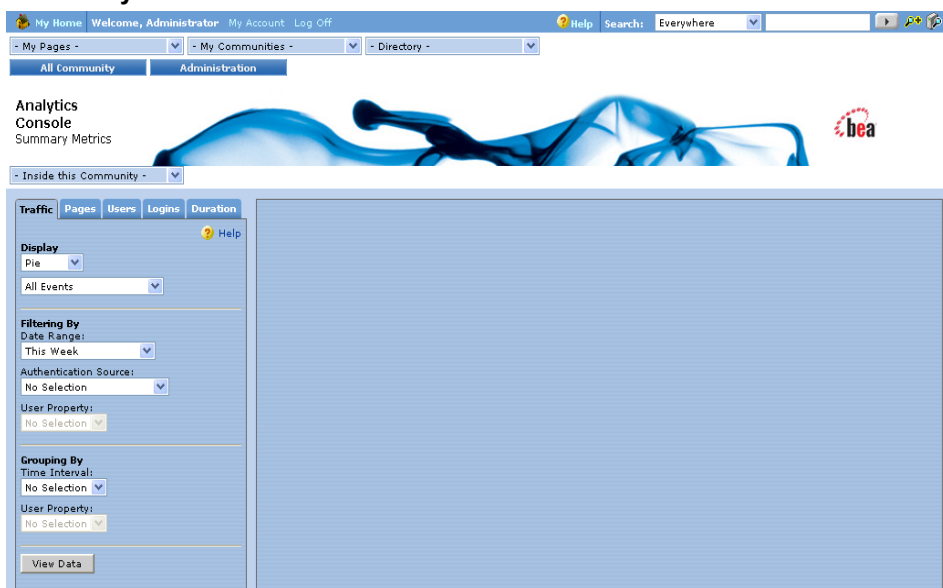
1. 管理者としてポータルにログインします。

**注意：** 管理者としてポータルにログインできない場合は、Analytics Console コミュニティに参加して、マイ コミュニティ リストに Analytics Console コミュニティを追加する必要があります。

2. [ マイ コミュニティ | Analytics Console ] を選択します。

次の図のように、Analytics Console が表示されます。

図 3-1 Analytics Console



# Analytics レポートのセキュリティの管理

Analytics のレポートは、容量計画、QoS 分析、ROI 分析、検索用の「おすすめコンテンツ」のカスタマイズなどの業務を担当する管理ユーザーに制限して、使用状況に関するメトリクスを提供するために使用します。

Analytics Console とポートレットのレポートには、エンタープライズ ポータルの分析に有用な利用状況データが含まれていますが、この情報にはポータル ユーザーの個人情報や機密情報も含まれています。例えば、検索、ドキュメント、コミュニティ、およびポートレットに関するレポートは、ユーザーの電子メールアドレス、姓、名等のユーザー プロパティに基づいて特定のユーザーの利用状況を表示するように設定することができます。

したがって、Analytics レポートを公開する前に、セキュリティや個人情報保護を保証するために以下を行う必要があります。

- Analytics Console とポートレット テンプレートへの管理アクセスを制限する。

一部の管理ユーザーのみが Analytics Console コミュニティをマイ コミュニティに追加したり、Analytics ポートレット テンプレートを使用してポートレットを作成できるようにするには、新しい管理グループを作成して、グループのメンバーシップを管理する必要があります。この管理グループのメンバーには、Analytics Console コミュニティへの読み取りアクセスと、ポートレット テンプレートが格納されている管理オブジェクト ディレクトリへの選択アクセスを設定する必要があります。

- Analytics ポートレットへのユーザーのアクセスを制限する。

ポートレットを作成する際は、特に必要がない限り、メトリクスに個人データや機密データが含まれないようにする必要があります。レポートの中のメトリクスに個人データや機密データが含まれる場合は、特定の適切なユーザーにのみ選択アクセスを設定し、それらのユーザーのみがそのポートレットをマイ ページに追加できるようにします。

- ゲスト ユーザーが、Analytics ポートレットをマイ ページに一切追加できないようにする。

管理グループを作成し、ポータル オブジェクトに対するユーザーおよびゲストのアクセスを管理する方法については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction』(Plumtree Foundation) を参照してください。

**注意：** ユーザーが、1 つのマイ ページに多数の Analytics ポートレットを追加しないようにする必要があります。Analytics ポートレットを追加すればするほどパフォーマンスが低下します。ユーザーからパフォーマンスの著しい低下やタイムアウトの発生が報告された場合は、各マイ ページに設定されている Analytics ポートレットを減らすことを提案してください。

# Analytics ポートレットの作成

カスタムの利用状況レポートを提供するポートレットは、Analytics ポートレット テンプレートを使用して作成できます。ポートレット テンプレートからポートレットを作成する方法については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction』 (Plumtree Foundation) を参照してください。

ポートレットを作成する際は、セキュリティおよび個人情報保護の問題を必ず検討してください。詳細については、[3-9 ページの「Analytics レポートのセキュリティの管理」](#)を参照してください。

# Analytics の活用方法 - 高度なヒントとテクニック

この節では、Analytics レポートをより効果的に活用したり、ポータルの使用状況の追跡を最大限に活用したりするための高度なヒントとテクニックを紹介します。

## ヒントとテクニック - Analytics レポートを効果的に活用する

次の表に、Analytics レポートをより効果的に活用するためのヒントとテクニックをまとめます。これらのテクニックを活用することで、ポータルのアクティビティを追跡したり、ポータルのパフォーマンスを改善したりできます。

表 3-2 ヒントとテクニック - Analytics レポートの活用

ヒント	説明
ヒント 1: レポートを表示するときに、フィルタリング機能とグループ化機能を組み合わせて使用する	<p>フィルタリング機能とグループ化機能を組み合わせることで、Analytics レポートを効果的に活用できます。例えば、営業チームの実績を都市別に表示し、販売量が最も多い都市を特定してから、その都市でどのチームが実績を上げているかを表示できます。次に、独自に作成した類似のレポートで、このような分析を実施する手順の例を示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「部門」ユーザー プロパティの値として「営業」を選択してレポートをフィルタします。</li> <li>2. 「市」ユーザー プロパティでレポートをグループ化します。 レポートに、営業チームの実績が都市別に表示されます。</li> <li>3. レポートを見て、販売量が最も多い都市を特定します。</li> <li>4. 販売量が最も多い都市でレポートをフィルタします。</li> <li>5. 「部門」ユーザー プロパティでレポートをグループ化します。 レポートに、その都市で最も実績を上げている部門が表示されます。</li> </ol>
ヒント 2: Analytics Console をポータル「クリーンアップ」ツールとして使用する	<p>コミュニティ、プロジェクト、およびポートレットの利用状況を追跡するためのレポートを分析することで、ポータルのパフォーマンスを改善できます。Analytics レポートは、以下の用途に利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ポータル内であまり利用されていないコミュニティやプロジェクトを特定する。特定できたら、それらを残しておく価値があるかどうかを判断します。残しておく価値がない場合はポータルから削除します。</li> <li>• ポータル内でパフォーマンスが低下しているコミュニティやポートレットを特定する。特定できたら、それらを修正すべきか、ポータルから削除すべきかを判断し、適切な措置を取ります。</li> </ul>

# ヒントとテクニック - ポータルの利用状況の追跡を最大限に活用する

次の表に、ポータル内の利用状況の追跡を最も効果的に活用するためのヒントとテクニックをまとめます。

表 3-3 ヒントとテクニック - 利用状況の追跡の最大限の活用

ヒント	説明
ヒント 1: ポートレット内のゲートウェイされたリンク	ゲートウェイされたリンクのみが含まれるようにポートレットを設定すると、「Portlet Metrics - 使用率」レポートの正確性が向上します。
ヒント 2: プロファイルウェブサービスを使用してユーザー プロパティをインポートする	<p>ユーザー プロパティをインポートすると、ユーザー プロファイルデータと追跡メトリクスを相互に参照することが可能になり、Analytics レポートをより効果的に活用できるようになります。たとえば、「部門」および「地域」ユーザー プロパティをインポートすると、「部門別コミュニティ訪問」レポート、「地域別ログイン」レポートなどを簡単に作成できます。</p> <p>プロファイル ウェブ サービスを使用してユーザー プロファイルをインポートする方法については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction』(Plumtree Foundation) を参照してください。</p>

# Analytics Administration の使用

この章では、Analytics Administration コンソールにアクセスして操作する方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [Analytics Administration へのアクセス](#)
- [Analytics Administration の使用](#)
- [Analytics Administration へのアクセスの制限](#)

## Analytics Administration へのアクセス

Analytics Administration にアクセスするには、次の手順に従います。

1. 管理者としてポータルにログインします。
2. [管理] をクリックします。
3. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[Analytics Administration] を選択します。

# Analytics Administration の使用

この節では以下のトピックについて説明します。

- [実行時設定](#)
- [セキュリティ設定](#)
- [パーティション設定](#)
- [イベントの登録](#)

## 実行時設定

[Runtime Settings] ページでは、タイムアウト期間を設定したり、ポートレット ビューや応答時間のデータ取得を有効にしたり、エクスポートするレポートの行数を制限したりできます。[Runtime Settings] ページで指定したタイムアウト設定は、Analytics でのレポート処理にのみ適用されます。これらのタイムアウト設定は、他のポータルのタイムアウト設定とは無関係です。

次の表に、設定可能なタイムアウト設定をまとめます。

表 4-1 タイムアウト設定

設定	説明
[Visit Timeout (seconds)]	ポータルを訪問しているユーザーがアクティブでなくなったと判断するまでの最大時間を秒単位で指定します。ユーザーの非アクティブな状態が訪問タイムアウトを超えて継続した場合、そのユーザーの以降のアクティビティは新しい訪問として報告されます。このデータは、期間コンソール ページに表示されます。デフォルトは、120 秒です。  <b>注意：</b> Analytics 2.0 にアップグレードした場合は、訪問タイムアウトのデフォルト設定が以前のバージョンから引き継がれます。例えば、Analytics 1.1 からアップグレードした場合、デフォルトの訪問タイムアウトは Analytics 1.1 のデフォルト値を引き継いで 600 秒になります。



表 4-1 タイムアウト設定

設定	説明
[Active User Timeout (days)]	<p>ポータル内のユーザーがアクティブでなくなったと判断するまでの最大日数を指定します。ユーザーの非アクティブな状態がアクティブ ユーザー タイムアウトを超えて継続した場合、そのユーザーは非アクティブ ユーザーとして報告されます。このデータは、ユーザー数コンソール ページに表示されます。デフォルトは 7 日間です。</p> <p><b>注意：</b> Analytics の稼動中にポータルをインストールすると、ポータルのユーザー アクティビティの計算がリセットされてインストール完了後に再開されます。このことが、Analytics でのユーザー タイムアウトの報告に影響する場合がありますので注意してください。たとえば、アクティブ ユーザー タイムアウトを 7 日間に設定している場合、あるユーザーが 8 日間の休暇を取って非アクティブな状態になると、8 日目に非アクティブ ユーザーとして報告されます。しかし、8 日間の休暇中の 3 日目に AquaLogic Interaction をインストールすると、休暇の 3 日目が非アクティブ状態の 1 日目として計算されます。その結果、このユーザーは 7 日間のアクティブ ユーザー タイムアウト期間に到達せず、引き続きアクティブ ユーザーとして報告されてしまいます。</p> <p><b>注意：</b> Analytics 2.0 にアップグレードした場合は、アクティブ ユーザー タイムアウトのデフォルト設定が以前のバージョンから引き継がれます。たとえば、Analytics 1.1 からアップグレードした場合、デフォルトのアクティブ ユーザー タイムアウトは Analytics 1.1 のデフォルト値を引き継いで 30 日間になります。</p>

## Analytics Administration の使用

次の表に、設定可能なポートレット ビュー / 応答時間設定をまとめます。

**表 4-2 ポートレット ビュー / 応答時間設定**

設定	説明
[Capture portlet views/response times]	<p>このチェック ボックスは、ポートレット ビューおよび応答時間のデータ収集を有効にする場合に選択します。ポートレット ビューデータは、<b>Portlet Metrics</b> のポートレット ビュー コンソール ページに表示されます。応答時間データは、<b>Portlet Metrics</b> の応答時間 コンソール ページに表示されます。ポートレット ビューおよび応答時間のデータ収集は、デフォルトでは無効になっています。</p> <p>ポートレット ビューおよび応答時間のデータは、<b>Analytics</b> がバージョン 5.0.4J、5.0.5J、または 6.0 のポータル (UNIX および Windows) で動作している場合にのみレポートに表示されます。</p> <p>ポートレット ビューおよび応答時間のデータ取得のガイドラインについては、<a href="#">5-3 ページの「ポートレット ビュー データの制限」</a>を参照してください。</p>

次の表に、設定可能なレポート エクスポート設定をまとめます。

**表 4-3 レポート エクスポート設定**

設定	説明
[Maximum rows to export]	<p>エクスポートするレポートに表示できる最大行数を選択します。デフォルトは 500 行です。この設定は、<b>Analytics</b> のコンソール ページおよびポートレットからエクスポートするすべてのレポートに適用されます。</p>

## セキュリティ設定

[Security Settings] ページでは、Analytics レポート内のどのデータにユーザー アクセスを許可するかを設定できます。このページでは、役割を追加または削除したり、[Edit Role] ウィンドウを開いて役割を変更したりできます。役割の変更とは、役割メンバー、機能、およびユーザー プロファイルを役割に追加したり、役割から削除したりする操作です。

Analytics では、ユーザーがセッションを確立したときに、ユーザーの役割と機能が取得されます。ユーザーのログイン中にそのユーザーの役割または機能を変更した場合は、ユーザーがログオフするかセッションが終了するまで、その変更は適用されません。

## スーパー ユーザー役割

スーパー ユーザー役割は Analytics であらかじめ提供されている役割で、デフォルトでは Analytics Administration に追加されています。スーパー ユーザー役割が付与されたポータル管理者グループおよび管理者ユーザーは、すべての機能およびユーザー プロパティにアクセスできます。

**注意：** Analytics を新たにインストールした場合は、ユーザーにスーパー ユーザー役割を割り当てる前に、ユーザー プロパティ同期ジョブを実行する必要があります。ユーザー プロパティ同期ジョブは、管理オブジェクト ディレクトリの [Analytics] サブフォルダ内の [Analytics Jobs] サブフォルダに格納されています。

スーパー ユーザー役割を完全に削除すると、システムからも削除されます。スーパー ユーザー役割を再度追加するには、もう一度作成する必要があります。

### 機能

次の表に、役割に割り当てることができる機能をまとめます。

**表 4-4 Analytics の役割機能**

機能	説明
ユーザー詳細レポート のエクスポート	<p>その役割を割り当てられているユーザーが、レポートからユーザー レベルのデータをエクスポートすることを可能にします。ユーザー レベルのデータは、Microsoft Excel で使用できる .xls ファイルにエクスポートされます。この機能は、デフォルトでは付与されていません。エクスポート可能なユーザー レベル データは、以下のレポートに含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Summary Metrics - トラフィック</li><li>• Summary Metrics - ログイン数</li><li>• Community Metrics - トラフィック</li><li>• Portlet Metrics - 使用率</li><li>• Other Metrics - 検索</li><li>• Other Metrics - ドキュメント</li><li>• Other Metrics - プロジェクト</li><li>• Other Metrics - コンテンツ アイテム</li></ul>

表 4-4 Analytics の役割機能

機能	説明
すべて / 上位 / 下位オプションの選択	その役割を割り当てられているユーザーが、「すべて / 上位 / 下位」表示オプションを使用することを可能にします。これらの表示オプションが含まれているレポートは、 <b>Summary Metrics</b> - ページ、 <b>Community Metrics</b> - トラフィック、 <b>Community Metrics</b> - 応答時間、 <b>Portlet Metrics</b> - 使用率、 <b>Portlet Metrics</b> - ビュー、 <b>Portlet Metrics</b> - 応答時間、 <b>Other Metrics</b> - ドキュメント、 <b>Other Metrics</b> - プロジェクト、および <b>Other Metrics</b> - コンテンツ アイテムです。 「すべて / 上位 / 下位」表示オプションが役割に付与されていない場合、その役割が割り当てられているユーザーは 1 つのコミュニティまたはプロジェクトを選択する必要があります。使用できるオプションは、レポートによって異なります。この機能は、デフォルトでは付与されていません。
ポータル ドキュメント 関連データの表示	この役割を割り当てられているユーザーが、「 <b>Other Metrics</b> - ドキュメント」レポートを表示すること、および「 <b>Other Metrics</b> - 検索」レポートのドキュメントの詳細を表示することを可能にします。この機能は、デフォルトでは付与されていません。

## パーティション設定

この節では、Analytics Administration の [Partition Settings] ページの設定について説明します。Analytics データベース内のパーティションをアーカイブおよび復元する際のガイドラインについては、[5-6 ページの「パーティションのアーカイブおよび復元」](#)を参照してください。

Analytics データは、月ごとのパーティションに分割された状態でデータベースに保存されます。ポータル管理者は、[Partition Settings] ページを使用して、Analytics レポートからアクセス可能なデータ パーティションの数を指定できます。アクセス可能なデータ パーティションは、Analytics エンジンによって定期的にスキャンされます。したがって、アクセス可能なパーティションの数を必要最小限にすることで、システム パフォーマンスをより制御しやすくなります。

毎月の月始めに新しいパーティションが作成され、月末までの新しい Analytics データはそのパーティションに格納されます。

**注意：** [Partition Settings] ページは、パーティションのアーカイブ後や復元後のデータベース ビューの更新にも使用します。データベース ビューを更新するには [ 終了 ] をクリックします。データベース ビューを更新しないと、Analytics レポートでエラーが発生します。

## スクロール ビュー ウィンドウの活用

スクロール ビュー ウィンドウは、データベース ビューを月別にスクロールするためのウィンドウで、[Partition Settings] ページで設定します。例えば、スクロール ビュー ウィンドウが有効になっており、そのサイズが 4 ヶ月に設定されているとします。今日が 8 月 5 日だとすると、スクロール ビュー ウィンドウの動作は以下のようになります。

スクロール ビュー ウィンドウでは、5 月、6 月、7 月、および 8 月の 4 ヶ月分のデータを利用できます (8 月が終了していない時点でも、スクロール ビュー ウィンドウでは 8 月のパーティションからのデータを利用できるため、Analytics レポートには常に最新のデータが表示されます)。

9 月 1 日には、スクロール ビュー ウィンドウが 1 ヶ月先にスクロールし、アクセスできるデータのパーティションは 6 月、7 月、8 月、および 9 月の 4 ヶ月分になります。5 月のパーティションはビューからは削除されますが、データベースには引き続き保持されています。この例で、12 月になって 5 月のパーティションのデータを利用したくなった場合は、スクロール ビュー ウィンドウのサイズを 8 ヶ月に増やすことで、5 月から 12 月までのデータを利用できるようになります。

Analytics レポートからアクセスできる月数を設定するには、スクロール ビュー ウィンドウを有効にしてから、3 ～ 60 の範囲で月数を指定します。スクロール ビュー ウィンドウのサイズとして指定した範囲に入らない月のパーティションのデータは、Analytics レポートには利用できません。

**注意：** スクロール ビュー ウィンドウを無効にした場合は、Analytics レポートからすべてのパーティションのすべてのデータにアクセスできます。

## パーティションのプレビュー

[Partition Settings] ページの [ プレビュー ] をクリックすると、すべてのパーティションが図示されたチャートを表示できます。以下のアイコンによって、それぞれのパーティションが Analytics レポートに利用できるかどうかを識別できます。

- 緑色の四角は、Analytics レポートに利用できるデータのパーティションを表します。

- **X** 印の付いた赤色の四角は、データベースにはまだ保持されているが、Analytics レポートには利用できないパーティションであることを示します。
- グレーの四角は、それらのパーティションの月はスクロール ビュー ウィンドウでの指定期間に含まれているが、そのデータを Analytics レポートに利用できないことを表します。通常、この状態はパーティションをデータベースからアーカイブした場合に発生します。

## イベントの登録

### イベント登録の概要

ポータルの管理者および開発者は、イベント登録機能を使用して、OpenUsage API で Analytics に送信されるカスタムのポータル イベントおよび非ポータル イベントを登録できます。イベント データは Analytics データベースに保存され、非ポータル アプリケーション用のレポート生成時に検索できます。この機能のユーザー インタフェースには、[Event Registration] ページと [Create Event] ページが含まれています。

[Event Registration] ページは、以下の用途に使用します。

- [Create Event] ページを表示する。[Create Event] ページは、イベントを作成し、そのパラメータを設定するために使用します。
- 個々のイベントによって生成されるデータの保存を有効または無効にする。データベースに保存されたイベント データは、ポータル アプリケーションや非ポータル アプリケーション用のレポート生成時に検索できます。
- ディメンションを作成する。ディメンションについては後ほど説明します。

**注意：** ここでは、イベント登録のユーザー インタフェースについてのみ説明します。この機能をフル活用するためには、OpenUsage API を使用する必要があります。OpenUsage API の使用方法の詳細については、「Using the AquaLogic Interaction Analytics OpenUsage API」(<http://dev2dev.bea.com/pub/a/2006/08/openusage-analytics.html>) を参照してください。

## イベント、イベント パラメータ、ディメンションの概要

通常、イベントは、捕捉したい 1 つのユーザー アクションを定義します。各イベントは、複数のイベント パラメータから構成されます。これらのパラメータで、イベントによって生成される各種データを定義します。デフォルトでは、USERID、TIMEID、VISITID、および OCCURRED イベント パラメータが含まれています。これらのパラメータの詳細については、[4-12 ページの「既定のパラメータ」](#)を参照してください。

[Event Registration] ページでは、独自のイベント パラメータを作成して、既定のパラメータでは定義されていないデータを取得することもできます。日付型、整数型、浮動小数点数型のデータを取得する場合は、単にそのデータ型のイベント パラメータを作成します。文字列型のデータを取得する場合は、「ディメンション」を作成してデータを定義する必要があります。ディメンションを作成したら、文字列型の新しいイベント パラメータを作成し、そのディメンションに関連付けます。

**注意：** あまり多くのディメンションを作成しないよう注意してください。データ収集とレポート処理のパフォーマンスが低下するおそれがあります。

[Event Registration] ページでは、独自のアプリケーションのテーブルからディメンションを使用できるようにすることもできます。その場合は、まず整数型のパラメータを作成します。次に、データベース スキーマを使用して、そのパラメータをディメンション テーブルの ID 列にマップします。

## カスタム ディメンションの作成

[Event Registration] ページの [Managed Dimensions] セクションでは、文字列型のデータを定義するためのカスタム ディメンションを作成できます。

ディメンションを使用するには、[ イベントの編集 ] ページでディメンションをイベント パラメータに関連付ける必要があります。ディメンションは、複数のイベント パラメータに関連付けて複数のイベントで使用できます。

ディメンション名は最大 20 文字で、英数字、スペース、アンダースコア以外は使用できません。

ここで指定したディメンション名は、[Event Registration] ページでのディメンションの表示方法のみを定義します。データベース内のカスタム ディメンション テーブルでは、`ascdim_<dimension_name>` という命名規則が適用されます (ディメンション名内のスペースはアンダースコアで置き換えられます)。



**注意：** [Event Registration] ページで [ 終了 ] をクリックした後は、ディメンションの名前を削除したり変更したりすることはできません。ディメンション名を変更する必要がある場合は、Support Center までお問い合わせください。

このディメンションのテーブルにユニークな値のみを格納する場合は、[Unique?] をチェックします。

## イベントの作成

[Create Event] ページでは、イベント名を指定し、そのイベントに含めるパラメータを定義できます。イベントとそのパラメータを定義して [ 終了 ] をクリックすると、イベントが保存され、データベースにファクト テーブルが作成されます。[Create Event] ページにアクセスするには、[Event Registration] ページで [ 追加 ] をクリックします。

**注意：** イベントを保存した後は、イベントおよびそのパラメータの名前を変更したり、イベントからパラメータを削除したりすることはできません。これらの操作を行う必要がある場合は、Support Center までお問い合わせください。ただし、保存したイベントにパラメータを追加することは可能です。

## イベント名

イベント名は最大 14 文字で、英数字、スペース、アンダースコア以外は使用できません。

**注意：** ファクト テーブルにデータを送信する際に、データベース内の列名ではなくこのページで指定したイベント名が使用されるようにするには、OpenUsage API の設定を変更する必要があります。

## テーブル名

テーブル名は、イベントのデータを格納するファクト テーブルの名前を定義します。テーブル名は読み取り専用です。データベース内のカスタム イベント テーブルでは、`ascfact_<event_name>` という命名規則が適用されます ( イベント名内のスペースはアンダースコアで置き換えられます )。Analytics 提供のファクト テーブルの詳細については、[5-5 ページの「既定のファクト テーブルの活用」](#) を参照してください。

## パラメータ名

パラメータ名は最大 14 文字で、英数字、スペース、アンダースコア以外は使用できません。このパラメータ名は、OpenUsage API でパラメータを受け渡しする際に使用します。

**注意：** [New Event] ページで [ 終了 ] をクリックした後は、パラメータの名前を削除したり変更したりすることはできません。これらの操作を行う必要がある場合は、Support Center までお問い合わせください。

### 既定のパラメータ

次の表に、Analytics であらかじめ提供されているパラメータをまとめます。これらのパラメータは、デフォルトではすべてのイベントに含まれます。

表 4-5 Analytics の既定パラメータ

パラメータ	説明
USERID	イベントをトリガするユーザーの ID。ユーザー ID の設定には、OpenUsage API を使用する必要があります。
TIMEID	イベントの発生ごとに生成されるユニークな ID 番号。この値は自動的に設定されます。
VISITID	イベントをトリガしたユーザーのポータル訪問 ID。 <b>注意：</b> このパラメータは、ポータル内で発生するイベントにのみ対応しています。この値は自動的に設定されます。
OCCURRED	イベントが生成された日時。日時スタンプの形式は、使用しているデータベースのタイプによって決まります。この値は自動的に設定されます。

### イベント データの保存

イベント データの保存を開始するには、[Event Registration] ページでイベントの横のチェック ボックスをチェックしてから [有効化] をクリックします。デフォルトでは、[有効化] をクリックした 30 分後に、BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector サービスによるイベント データの保存が開始されます。

### イベント データの保存の停止

イベントのデータの保存を停止するには、[Event Registration] ページでイベントの横のチェック ボックスをチェックしてから [無効化] をクリックします。イベントが無効になっても、イベントを編集することは可能です。デフォルトでは、[無効化] をクリックした 30 分後に、BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector サービスによるイベントデータの保存が停止します。

## Analytics Administration へのアクセスの制限

Analytics Administration ウェブ サービスへのアクセス権限があるユーザーは、管理者であるかどうかにかかわらず、URL を使用して Analytics Administration コンソールにアクセスできます (管理者は、ポータル ユーザー インタフェースを使用して Analytics Administration コンソールにアクセスできます)。

ユーザーが URL を使用して Analytics Administration にアクセスできないようにするには、そのユーザーの Analytics Administration ウェブ サービスへのアクセス権限を削除します。詳細については、『Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction』(Plumtree Foundation) を参照してください。

ユーザーが URL を使用して Analytics Administration にアクセスできるようにしたい場合は、最低でも Analytics Administration ウェブ サービスへの読み取りアクセス権限をそのユーザーに付与する必要があります。

## Analytics Administration の使用

# Analytics データベースの管理

この章では以下のトピックについて説明します。

- [Analytics データベースのサイジング](#)
- [パーティションのアーカイブおよび復元](#)

## Analytics データベースのサイジング

この節では、Analytics データベースのサイズの肥大化を管理する方法と推奨事項について説明します。サイズをうまく管理することで、パフォーマンスを向上させることができます。以下のトピックについて説明します。

- [Analytics データベースのデータ量増加の概要](#)
- [ポートレット ビュー データの制限](#)
- [Analytics データベース \(Oracle\) のチューニング](#)

# Analytics データベースのデータ量増加の概要

Analytics データベースのデータ量増加の大部分は、Analytics 提供のファクト テーブルで発生します。Analytics 提供の他のテーブル (ディメンション テーブルなど) は、Analytics データベースのデータ量増加の面ではさほど重要ではありません。この節では、ファクト テーブルおよびディメンション テーブルのデータ量の増加について詳しく説明します。

## ファクト テーブルのデータ量の増加

ファクト テーブルは、日付型、整数型、および浮動小数点数型のパラメータ データを取得します。Analytics 提供のファクト テーブルの中では、ASFACT\_PAGEVIEWS、ASFACT\_PORTLETUSES、および ASFACT\_PORTLETVIEWS テーブルのデータ量が最も速く増加します。したがって、これらのテーブルを注意深く監視する必要があります。Analytics 提供のファクト テーブルの一覧については、[5-5 ページの「既定のファクト テーブルの活用」](#)を参照してください。

Analytics Administration の [Event Registration] セクションで作成および登録するカスタム イベントもファクト テーブルに格納されます。カスタム イベントによって大量のデータ (たとえば年間 100 万件のイベント) が生成されることが予想される場合は、そのテーブルを監視し、必要に応じて古いパーティションをアーカイブすることをお勧めします。パーティションをアーカイブおよび復元する際のガイドラインについては、[5-6 ページの「パーティションのアーカイブおよび復元」](#)を参照してください。

Oracle および SQL Server のデータベースのデータ量は、ほぼ同じ割合で増加します。データベースに 100 万件のイベントを格納するのに、およそ 150MB のディスク容量が必要です。次の表に、イベントの件数と、それを格納するのに必要なデータベース サイズをまとめます。

**表 5-1 イベントの件数と、対応する推定データベース サイズ**

イベント件数	推定データベース サイズ
1,000,000	150MB
2,000,000	300MB
5,000,000	750MB
10,000,000	1.5GB

これらの推定サイズに基づいて、実際のデータベースで必要となる容量を計算できます。システム内のイベント件数が増加し続けると、最終的にはクエリのパフォーマンスが低下し始めます。したがって、ボリュームが大きい環境では、データベースのデータ量の増加を監視し、適切な措置を講じてパフォーマンスの低下を防いでください。

## ディメンション テーブルのデータ量の増加

Analytics では、ディメンションを使用して文字列型のイベント パラメータを取得します。ディメンション データが変更される頻度はイベントの発生頻度ほど高くないため、ディメンション テーブルのデータ量がファクト テーブルのようなペースで増加することはありません。

なお、Analytics でレポート処理を行うアプリケーションからオブジェクトが削除されても、そのオブジェクトのディメンション データは Analytics データベースに保持されます。したがって、オブジェクトがアプリケーションから削除される前にそのオブジェクトで発生したイベントは、引き続き Analytics レポートに記載されます。

## ポートレット ビュー データの制限

ポートレット ビューは、システム内で最も多く生成されるイベントです。ポートレット ビュー データを継続的に収集することは、データベースのデータ量の増加が 3 倍のペースで進む原因にもなるためお勧めできません。ポートレット ビュー データは、継続的に収集するのではなく、定期的に「サンプリング」するようにしてください。その場合は、**[Capture portlet views/response times]** オプションを有効にし、限定的な期間 (たとえば 1 ～ 2 週間) を指定します。このオプションは、Analytics Administration の [Runtime Settings] ページで設定できます。詳細については、[4-2 ページの「実行時設定」](#)を参照してください。

ポートレット ビュー データを継続的に収集する場合は、古いデータ パーティションを頻繁にアーカイブして、データベースの容量が不足するのを防ぐ必要があります。

ポートレット ビュー データは、Portlet Metrics のビュー コンソール ページに表示されます。応答時間データは、Portlet Metrics の応答時間コンソール ページに表示されます。

**注意：** ポートレット ビューおよび応答時間のデータは、Analytics がバージョン 5.0.4J、5.0.5J、または 6.0 のポータル (UNIX および Windows) で動作している場合にのみレポートに表示されます。

# Analytics データベース (Oracle) のチューニング

Oracle データベースのパフォーマンスを最適化するため、以下のチューニングを実施することをお勧めします。

- `create_analytics_tablespaces.sql` スクリプトを編集して、データベースの適切なサイジング情報を含める。`create_analytics_tablespaces.sql` スクリプトは、Analytics データベースのホスト コンピュータ内のプラットフォーム別サブディレクトリに格納されています。

**注意：** データベースの開発やステージングにおいては、`create_analytics_tablespaces.sql` スクリプト内のデフォルト値をそのまま使用できます。一方、実稼動環境では、適切な値に変更する必要があります。

- ANALYTICSTABLE テーブルスペースを、ANALYTICSINDEX テーブルスペースとは別のドライブに移動する。
- Oracle データベースを次の表に従って設定する。

表 5-2 Oracle データベースの推奨設定

設定項目	設定値
バッファ キャッシュ	250MB に増やす
PGA 集計ターゲット	150MB に増やす
データ ブロック サイズ	16K に増やす

**注意：** この表の推奨値は、Analytics データベースを使用する場合にのみ適用されます。お使いの環境に合わせて、これらの値を微調整してください。



## 既定のファクト テーブルの活用

次の表に、Analytics であらかじめ提供されているファクト テーブルをまとめます。すべてのファクト テーブルはプレフィックス *ASFACT\_* で始まりますので、Analytics データベースでの作業中に簡単に識別できます。

**表 5-3 Analytics の既定のファクト テーブル**

ファクト テーブル	説明
ASFACT_CSDISCPSTS	Collaboration ディスカッション投稿
ASFACT_CSDOCUPLOADS	Collaboration ドキュメント アップロード
ASFACT_DOCUMENTVIEWS	ドキュメント ビュー
ASFACT_KDFOLDERVIEWS	ナレッジディレクトリ ビュー
ASFACT_LOGINS	ユーザー ログイン
ASFACT_PAGEVIEWS	ページ ビュー
ASFACT_PORTLETUSES	ポータルレット使用率
ASFACT_PORTLETVIEWS	ポータルレット ビュー
ASFACT_PUBITEMVIEWS	Publisher アイテム ビュー
ASFACT_SEARCHES	検索

Analytics が提供するすべてのテーブルの説明については、リリース パッケージの **Database\_Schema\_BEA\_AquaLogic\_Interaction\_Analytics\_v2.0.pdf** ドキュメントを参照してください。

## パーティションのアーカイブおよび復元

この節では、Analytics データベース内のパーティションをアーカイブおよび復元する際のガイドラインについて説明します。Analytics Administration の [Partition Settings] の詳細については、[4-7 ページの「パーティション設定」](#)を参照してください。

Analytics データベースのサイズを一定に維持し、クエリのパフォーマンスを良好に保つため、6 ヶ月以上前のパーティション データはアーカイブすることをお勧めします。パーティションされたテーブルの年月は、そのサフィックスから判断できます。サフィックスは、例えば `_08_2006` のようになっています。

パーティションをアーカイブまたは復元したら、[Partition Settings] ページで [ 終了 ] をクリックしてデータベース ビューを更新する必要があります。データベース ビューを更新しないと、Analytics レポートでエラーが発生します。

**警告：** パーティションされていない現在のファクト テーブルを削除しないようにしてください。また、データベース ビューも削除しないでください。これらを削除する代わりに、スクロール ビュー ウィンドウを使用して、Analytics レポートからアクセス可能なデータ パーティションの数を指定してください。

# Analytics 同期

この章では以下のトピックについて説明します。

- [Analytics 同期の概要](#)
- [強制同期の実行](#)
- [戦略的な同期スケジュール設定](#)

## Analytics 同期の概要

Analytics 同期とは、オブジェクトディメンションデータを、リモートデータベースから、格納先となる Analytics データベースに送信するプロセスです。同期プロセスは、Analytics 提供の同期ジョブを使用して、Automation Service によって実行されます。ディメンション データは、JDBC 接続を介して転送されます。

Analytics 同期ジョブは、オブジェクトごとに存在します。[Analytics Jobs] サブフォルダは、管理オブジェクト ディレクトリの [Analytics] サブフォルダ内にあります。同期の対象となるオブジェクト、およびそれらに関する製品と Automation Service ジョブの一覧については、[6-2 ページの「同期されるディメンションデータと関連ジョブ」](#)を参照してください。

## Analytics 同期

Analytics をインストールまたはアップグレードすると、Automation Service によってすべての Analytics 同期ジョブが自動的に実行されます (Automation Service に追加された Analytics ジョブも同時に実行されます)。初めて実行される同期は「完全同期」です。完全同期では、製品で報告されたすべてのオブジェクトに関するディメンション データが転送され、Analytics データベースのジョブ レコードが設定されます。

初回の同期の後には、Automation Service によって自動的かつ定期的に「部分同期」が実行されます。部分同期では、すべての Analytics 同期ジョブにおいて、前回の同期以降に追加または変更されたオブジェクトに関するディメンション データのみが転送されます。なお、Analytics でレポート処理を行うアプリケーションからオブジェクトが削除されても、そのオブジェクトのディメンション データは Analytics データベースに保持されます。したがって、オブジェクトがアプリケーションから削除される前にそのオブジェクトで発生したイベントは、引き続き Analytics レポートに記載されます。

デフォルトでは、Automation Service による部分同期は 1 日 1 回実行されます。各同期ジョブのスケジュールは、環境や用途に合わせて変更できます。同期のスケジュール設定のガイドラインについては、[6-6 ページの「戦略的な同期スケジュール設定」](#)を参照してください。

同期ジョブの詳細は、ジョブ履歴ログまたは Analytics の sync.log ファイルで確認できます。Analytics の sync.log ファイルの格納場所については、[A-2 ページの「ログの概要」](#)を参照してください。

## 同期されるディメンション データと関連ジョブ

次の表に、Analytics による同期が実行される製品、ディメンション データが同期されるオブジェクト、およびそのディメンション データの同期をトリガする Analytics ジョブをまとめます。[Analytics Jobs] サブフォルダは、管理オブジェクト ディレクトリの [Analytics] サブフォルダ内にあります。

表 6-1 Analytics 同期 - オブジェクトおよび関連同期ジョブの一覧

製品	オブジェクト	Analytics ジョブ
BEA AquaLogic Interaction (「ポータル」)	コミュニティ	コミュニティ同期ジョブ
	コミュニティ ページ	コミュニティ ページ同期ジョブ
	ポートレット	ポートレット同期ジョブ
	認証元	認証元同期ジョブ
	コミュニティとポートレットの 関係	コミュニティ ポートレット マップ 同期ジョブ
	ディレクトリ フォルダ	ディレクトリ フォルダ同期ジョブ
	ドキュメント データソース	ドキュメント データソース同期 ジョブ
	KD ドキュメント	ドキュメント同期ジョブ
	KD ドキュメントとディレクトリ フォルダの関係	ドキュメント フォルダ マップ同期 ジョブ
	ユーザー プロパティ	プロパティ同期ジョブ
	ユーザー プロパティ値	ユーザー プロパティ同期ジョブ
	<b>注意：</b> 長さが 255 文字を超える ユーザー プロパティ値は、 Analytics データベースで は 255 文字に切り詰められ ます。ユーザー プロパ ティ値は、ポータル デー タベースでは変更されませ ん。	
	ユーザー	ユーザー同期ジョブ
BEA AquaLogic Interaction Collaboration	Collaboration プロジェクト	Collab プロジェクト同期ジョブ

**表 6-1 Analytics 同期 - オブジェクトおよび関連同期ジョブの一覧**

製品	オブジェクト	Analytics ジョブ
	Collaboration ディスカッション	Collab ディスカッション同期ジョブ
	Collaboration ドキュメント	Collab ドキュメント同期ジョブ
	Collaboration メッセージ投稿データ	メッセージ投稿同期ジョブ
	Collaboration ドキュメントアップロードデータ	ドキュメントアップロード同期ジョブ
BEA AquaLogic Interaction Publisher	コンテンツ アイテム	コンテンツ アイテム同期ジョブ
	コンテンツ フォルダ	コンテンツ フォルダ同期ジョブ

**注意：** Analytics 同期ジョブに加え、管理オブジェクトディレクトリには以下の Analytics ジョブが格納されています。これらのジョブは同期とは無関係です。

- ユーザー状態更新ジョブ。アクティブユーザー タイムアウトの設定に基づいて、ユーザーのアクティビティ / 非アクティビティを計算します。アクティブユーザー タイムアウトは、Analytics Administration の [Runtime Settings] ページで設定できます。詳細については、[4-2 ページの「実行時設定」](#)を参照してください。
- ホスト解決ジョブ。Analytics 提供のイベントと一緒に送信された IP アドレスを解決します。このジョブでは、カスタム イベントと一緒に送信された IP アドレスは解決されません。

# 強制同期の実行

強制同期では、現在のディメンション データが Analytics データベースに設定されます。

## すべてのディメンション データの強制同期の実行

すべてのディメンション データの強制同期を実行するには、次の手順に従います。

1. Analytics データベースで次の SQL コマンドを実行します。

```
TRUNCATE TABLE ASSYS_JOBLOGS
```

これにより、ASSYS\_JOBLOG からすべてのレコードが削除されます。

2. すべての Analytics ジョブを実行する Automation Service をスケジュールします。

これらの Analytics ジョブを実行することで、現在のディメンション データが Analytics データベースに設定されます。

## 単一オブジェクトのディメンション データの強制同期の実行

単一のオブジェクトのディメンション データを強制同期させるには、次の手順に従います。

1. そのオブジェクトに関連付けられている同期ジョブのログ レコードを削除します。

ログ レコードは、ASSYS\_JOBLOGS テーブルに保持されています。

2. そのオブジェクトに関連付けられている同期ジョブを実行する Automation Service をスケジュールします。

この Analytics ジョブを実行することで、そのオブジェクトのディメンション データが Analytics データベースに設定されます。

Analytics が提供するすべてのテーブルの説明については、リリース パッケージの **Database\_Schema\_BE\_AquaLogic\_Interaction\_Analytics\_v2.0.pdf** ドキュメントを参照してください。

## 戦略的な同期スケジュール設定

環境によっては、一部のディメンション データが他のディメンション データよりも頻繁に変更されることも考えられます。お使いの環境に応じて、適切なジョブ スケジュール戦略を採用することをお勧めします。

以下に、スケジュール設定の戦略の例を示します。

- ポータルにほとんど変更されることのないオブジェクトが含まれている場合は、該当の **Analytics** 同期ジョブを手動で実行する。例えば、ポータルの認証元が稀にしか変更されないのであれば、認証元同期ジョブは手動で実行します。
- ポータルに週に 1 度だけ変更されるオブジェクトが含まれている場合は、該当の **Analytics** 同期ジョブが週に 1 度実行されるようにスケジュール設定する。例えば、実稼動ポータルに新しいポートレットとコミュニティを追加するのが週に 1 度であれば、該当の同期ジョブが週に 1 度実行されるようにスケジュール設定します。
- ポータルに頻繁に変更されるデータが含まれている場合は、該当の **Analytics** 同期ジョブも頻繁に実行されるようにスケジュール設定する。例えば、登録ウェブ サイトでのポータル ユーザー アカウントの作成が一日中発生するようであれば、ユーザー同期ジョブが 1 時間に 1 度実行されるようにスケジュール設定します。

Automation Service ジョブのスケジュール設定の詳細については、『**Administrator Guide for BEA AquaLogic Interaction**』 (Plumtree Foundation) を参照してください。



# トラブルシューティング

この付録では、Analytics の実行時に問題が発生した場合のトラブルシューティングについて説明します。以下のトピックについて説明します。

- [ログの概要](#)
- [実行時の一般的な問題のトラブルシューティング](#)

**注意：** Analytics のインストール時および設定時のトラブルシューティングの詳細については、『BEA AquaLogic Interaction Analytics インストールおよびアップグレード ガイド』を参照してください。

# ログの概要

次の表に、Analytics の実行時のトラブルシューティングに使用できるログをまとめます。個別のログ ファイルは日付別に生成され、その日に発生したアクティビティを記録します。

**表 A-1 Analytics 実行時のトラブルシューティングに使用するログ**

ログ	説明	格納場所およびプラットフォーム
analyticsui.log	Analytics Console ユーザー インタフェース /BEA AquaLogic Interaction Analytics サービスのアクティビティおよびエラーの詳細を提供します。	<ul style="list-style-type: none"><li>• C:\bea\alui\ptanalytics\2.0\logs (Windows)</li><li>• /opt/bea/alui/ptanalytics/2.0/logs (UNIX/Linux)</li></ul>
wrapper_analyticsui.log	BEA AquaLogic Interaction Analytics サービスのその他のアクティビティおよびエラーの詳細 (それらのユーザー インタフェースの詳細を含む) を提供します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Analytics Console</li><li>• Analytics Administration</li><li>• Analytics Configurator</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• C:\bea\alui\ptanalytics\2.0\logs (Windows)</li><li>• /opt/bea/alui/ptanalytics/2.0/logs (UNIX/Linux)</li></ul>
asmanagerui.log	Analytics Administration ユーザー インタフェース /BEA AquaLogic Interaction Analytics サービスのアクティビティおよびエラーの詳細を提供します。	<ul style="list-style-type: none"><li>• C:\bea\alui\ptanalytics\2.0\logs (Windows)</li><li>• /opt/bea/alui/ptanalytics/2.0/logs (UNIX/Linux)</li></ul>

表 A-1 Analytics 実行時のトラブルシューティングに使用するログ

ログ	説明	格納場所およびプラットフォーム
collector.log	<p>以下のアクティビティおよびエラーの詳細を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector サービス</li> <li>Analytics の実行時に発生する定期的なパーティション化アクティビティ</li> </ul> <p>partition.log ファイルは、Analytics データベースのアップグレード時の初期パーティション化に関わるアクティビティおよびエラーの詳細を提供します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>C:\bea\alui\ptanalytics\2.0\logs (Windows)</li> <li>/opt/bea/alui/ptanalytics/2.0/logs (UNIX/Linux)</li> </ul>
wrapper_collector.log	<p>BEA AquaLogic Interaction Analytics サービスのその他のアクティビティおよびエラーの詳細 (それらのユーザー インタフェースの詳細を含む) を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Analytics Console</li> <li>Analytics Administration</li> <li>Analytics Configurator</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>C:\bea\alui\ptanalytics\2.0\logs (Windows)</li> <li>/opt/bea/alui/ptanalytics/2.0/logs (UNIX/Linux)</li> </ul>
sync.log	<p>Analytics 同期ジョブのアクティビティおよびエラーの詳細を提供します。</p>	<p>sync.log ファイルは、Automation Service ホスト マシンの以下のディレクトリに格納されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>C:\bea\alui\ptanalytics\2.0\logs (Windows)</li> <li>/opt/bea/alui/ptanalytics/2.0/logs (UNIX/Linux)</li> </ul>

# 実行時の一般的な問題のトラブルシューティング

次の表では、実行時の一般的な問題と、その解決策について説明します。

表 A-2 実行時の一般的な問題と解決策

問題の説明と詳細	原因と解決策
<ul style="list-style-type: none"><li>問題: レポートにデータが生成されない。</li><li>詳細: Analytics レポートにデータが設定されていない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>原因 1: Interaction コンポーネントに、Analytics サービスの不正なホスト サーバー名が設定されている。</li><li>解決策 1: ポータル サーバーで、Analytics サービスの正しいホスト サーバー名を指定してインストーラを再実行します。必ず、Analytics サービスをインストールしたホスト コンピュータの完全修飾ドメイン名を指定します。AquaLogic Interaction をインストールしたホスト コンピュータではありませんので注意してください。詳細については、『BEA AquaLogic Interaction Analytics インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。</li></ul>

表 A-2 実行時の一般的な問題と解決策

問題の説明と詳細	原因と解決策
<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>問題:</b> ポートレットのパフォーマンスが著しく低下した。</li> <li>• <b>詳細:</b> Analytics ポートレットの使用中に、パフォーマンスが著しく低下したり、タイムアウトが頻繁に発生したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>原因 2:</b> BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector サービスが実行されていない。</li> <li>• <b>解決策 2:</b> BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector サービスが開始されていることを確認します。詳細については、『BEA AquaLogic Interaction Analytics インストールおよびアップグレード ガイド』を参照してください。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>原因 3:</b> Interaction コンポーネントをインストールした後に、portal.war または portal.ear ファイルをポータルアプリケーション サーバーに再導入しなかった。</li> <li>• <b>解決策 3:</b> 以下のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Java で実行している場合は、アプリケーション サーバーを再起動します。その後、ポータル アプリケーション サーバーに portal.war または portal.ear ファイルを再導入します。</li> <li>■ IIS で実行している場合は、アプリケーション サーバーを再起動します。手順については、お使いのアプリケーション サーバーの資料を参照してください。</li> </ul> </li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>原因 4:</b> パーティションをアーカイブまたは復元した後にデータベース ビューを更新しなかった。</li> <li>• <b>解決策 4:</b> パーティションをアーカイブまたは復元したら、Analytics Administration の [Partition Settings] ページで [終了] をクリックしてデータベース ビューを更新する必要があります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>原因 1:</b> 単一のマイ ページに追加されている Analytics ポートレットが多すぎる。</li> <li>• <b>解決策 1:</b> 単一のマイ ページに追加されている Analytics ポートレットを減らすようユーザーに促します。</li> <li>• <b>原因 2:</b> データ量が非常に多いレポートでタイムアウトが発生している。</li> <li>• <b>解決策 2:</b> この問題は、そのレポートのウェブ サービスで、ゲートウェイ タイムアウトの設定をより大きい値に変更することで解決できる可能性があります。</li> </ul>

## トラブルシューティング

表 A-2 実行時の一般的な問題と解決策

問題の説明と詳細	原因と解決策
<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>問題:</b> レポートでフィルタ オプションを使用したときに、すべてのデータが検索されない。</li><li>• <b>詳細:</b> フィルタに指定したプロパティが関連付けられているデータしか検索されない。</li><li>• <b>例:</b> ある企業では、10,000 人の従業員が働いています。ただし、ユーザー プロファイルに「部門」プロパティが割り当てられているのは、最近追加した 200 人だけです。管理者が、データ範囲に対してレポートとクエリを実行し、「部門」プロパティの値が「人事」になっているデータをフィルタしたとします。この場合、レポートでフィルタされるのは、「部門」プロパティが割り当てられている従業員 200 人だけです。残りの 9,800 人は、「部門」プロパティが割り当てられていないため、レポートではフィルタされません。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>解決策:</b> これは、設計どおりの動作です。レポートですべてのデータをフィルタするには、フィルタに指定したプロパティがすべてのデータに関連付けられていなければなりません。この例の場合、全従業員 10,000 人をフィルタするには、10,000 人全員に「部門」プロパティを割り当てる必要があります。</li></ul>

表 A-2 実行時の一般的な問題と解決策

問題の説明と詳細	原因と解決策
<ul style="list-style-type: none"> <li>問題: レポートに日本語のテキストが正しく表示されない。</li> <li>詳細: Y 軸に日本語の文字が表示されない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原因: analytics.war ファイルが、Analytics レポートの Y 軸に日本語文字を表示できるように設定されていない。</li> <li>解決策: AnalyticsUIParams.properties ファイルの設定を変更して、使用しているロケールおよびプラットフォームに合ったフォント設定を含めます。 <ol style="list-style-type: none"> <li>analytics.war ファイルを復元します。</li> <li>AnalyticsUIParams.properties ファイルを編集用を開きます。このファイルは、analyticsui.jar ファイルに含まれています。</li> <li>以下のロケール エントリを追加します。 <pre> &lt;LocaleCode&gt;_font_&lt;OSName&gt;=&lt;LocalFont&gt;  &lt;LocaleCode&gt;_fontSize=14  &lt;LocaleCode&gt;_fontSmallSize=10 </pre> </li> <li>保存して .war ファイルを再パッケージ化します。</li> </ol> </li> </ul> <p>ロケール エントリの各要素の説明は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;LocaleCode&gt; には、2 文字の言語コードを指定します。</li> <li>&lt;OSName&gt; には、使用しているオペレーティング システム (Windows、Solaris、または Linux) を指定します。</li> <li>&lt;LocalFont&gt; には、使用しているロケールおよびプラットフォームに適合するフォントの名前を指定します。</li> </ul> <p><b>Windows の例:</b></p> <pre> ja_font_Windows=MS PGothic  ja_fontSize=14  ja_fontSmallSize=10 </pre>

## トラブルシューティング

**表 A-2 実行時の一般的な問題と解決策**

問題の説明と詳細	原因と解決策
<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>問題</b> : キャッシュされたポートレットの使用率データが、「Portlet Metrics - 使用率」レポートに表示されない。</li><li>• <b>詳細</b> : ゲートウェイされたポートレットのポートレット使用率イベントが、キャッシュされたポートレットのブラウザ上での使用を記録していない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>原因</b> : http ヘッダが「no-cache」を返すように設定されていない。</li><li>• <b>解決策</b> : http ヘッダが「no-cache」を返すように設定します。http ヘッダ仕様プロトコルについては、<a href="http://www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html">http://www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html</a> を参照してください。</li></ul>



# 索引

## A

### Analytics

アーキテクチャ 2-2

概要 2-1

サービス 2-3

ポートレット テンプレート 3-10

レポート 3-1

### Analytics Administration

アクセスの制限 4-13

アクセス方法 4-1

実行時設定 4-2

使用 4-2

Analytics サービス 2-3

Analytics サービス、BEA AquaLogic  
Interaction Analytics サービスを参照

### Analytics データベース

Oracle のチューニング 5-4

概要 2-4

サイジング 5-1

推定サイズ 5-2

ディメンションの命名規則 4-10

データ量の増加 5-2

### Analytics データベース ビュー

削除に関する警告 5-6

### Analytics 同期ジョブ 6-3

### Analytics ポートレット

ゲスト ユーザーのアクセスの管理 3-9

パフォーマンスの問題 A-5

### Analytics ポートレット テンプレート

概要 3-10

管理アクセスの管理 3-9

### Analytics レポート

アクセス方法 3-8

セキュリティ 3-9

ANALYTICSINDEX テーブルスペース 5-4

ANALYTICSINDEX テーブルスペース 5-4

analyticsui.log A-2

asmanagerui.log A-2

ASSYS\_JOBLOG 6-5

Automation Service コンポーネント 2-4

Automation Service ジョブ 6-3

## B

BEA AquaLogic Interaction Analytics Collector  
サービス 2-3

BEA AquaLogic Interaction Analytics サービス  
2-3

## C

[Capture portlet views/response times] 4-4

Collab ディスカッション同期ジョブ 6-4

Collab ドキュメント同期ジョブ 6-4

Collab プロジェクト同期ジョブ 6-3

### Collaboration

ディスカッション投稿ファクト テーブル  
5-5

同期 6-3

ドキュメントアップロードファクト テー  
ブル 5-5

Collector サービス、BEA AquaLogic  
Interaction Analytics Collector サービス  
を参照

collector.log A-3

[Create Event] ページ 4-11

create\_analytics\_tablespace.sql 5-4

## E

[Event Registration] ページ 4-9

## I

Image Service コンポーネント 2-4

Interaction コンポーネント 2-3

IP アドレス、解決 6-4

## M

[Maximum rows to export] 4-4

## O

OCCURRED パラメータ 4-12

OpenUsage API 2-3

Oracle データベース、チューニング 5-4

## P

[Partition Settings] ページ 4-7

PGA 集計ターゲット (Oracle 設定) 5-4

Publisher アイテム ビュー ファクト テーブル  
5-5

Publisher、同期 6-4

## R

[Runtime Settings] ページ 4-2

## S

sync.log A-3

## T

TIMEID パラメータ 4-12

## U

USERID パラメータ 4-12

## V

VISITID パラメータ 4-12

## W

wrapper\_analyticsui.log A-2

wrapper\_collector.log A-3

## あ

アーキテクチャ 2-2

アクティブ ユーザー タイムアウト、設定 4-3

## い

イベント

定義 4-10

データの保存 4-12

テーブルの命名規則 4-11

名前の長さ 4-11

イベント パラメータ、パラメータを参照

イベント名 4-11

## お

応答時間、取得の設定 4-4

応答時間レポート (Community Metrics) 3-4

応答時間レポート (Portlet Metrics) 3-5

## か

カスタム イベント

監視の推奨 5-2

作成 4-11

カスタム ディメンション 4-10

完全同期 6-2

管理、Analytics Administration を参照

管理アクセス、管理 3-9

管理対象ディメンション 4-10

## き

期間レポート 3-3

機能 4-6

行、エクスポートする最大行数の設定 4-4

強制同期 6-5

## く

グループ化 3-11

## け

ゲートウェイされたリンク 3-12

ゲスト ユーザー

ポートレットへのアクセスの管理 3-9

検索ファクトテーブル 5-5

検索レポート

概要 3-6

ドキュメントの詳細へのユーザー アクセス  
の許可 4-7

## こ

- コミュニティ同期ジョブ 6-3
- コミュニティ トラフィック レポート 3-3
- コミュニティ ページ同期ジョブ 6-3
- コミュニティ ポートレットマップ同期ジョブ 6-3
- コンテンツ アイテム同期ジョブ 6-4
- コンテンツ アイテム レポート 3-7
- コンテンツ フォルダ同期ジョブ 6-4

## さ

- サービス 2-3

## し

- 実行時の問題 A-3

## す

- スーパー ユーザー役割 4-5
- スクロール ビュー ウィンドウ 4-8
- 「すべて / 上位 / 下位」オプション、アクセスの許可 4-7
- 「すべて / 上位 / 下位オプションの選択」機能 4-7

## せ

- セキュリティ
  - Analytics Administration 4-13
  - Analytics レポートの管理 3-9
  - [Security Settings] ページ 4-5

## て

- ディメンション
  - カスタム 4-10
  - 同期の強制 6-5
  - 名前の長さ 4-10
- ディメンション テーブル
  - 定義 5-3
  - データ量の増加 5-3
- ディメンション名 4-10
- ディレクトリ フォルダ同期ジョブ 6-3
- データ取得の設定 4-4
- データ表示の問題 A-3

- データ ブロック サイズ (Oracle 設定) 5-4
- データベース、Analytics データベースを参照
- テーブルスペース、分離 5-4
- デフォルト

- `create_analytics_tablespaces.sql` 内の値 5-4
- アクティブ ユーザー タイムアウト 4-3
- イベント データの保存 4-12
- イベント データの保存の停止 4-13
- イベント パラメータ 4-10
- エクスポートする最大行数 4-4
- スーパー ユーザー役割 4-5
- 「すべて / 上位 / 下位オプションの選択」機能 4-7
- 同期の頻度 6-2
- 訪問タイムアウト期間 4-2
- 「ポータル ドキュメント関連データの表示」機能 4-7
- ポートレット ビューおよび応答時間のデータ収集 4-4
- 「ユーザー詳細レポートのエクスポート」機能 4-6

## と

- 同期
  - 概要 6-1
  - 完全 6-2
  - スケジュール設定 6-6
  - 部分 6-2
- 同期ジョブ、Analytics 同期ジョブを参照
- ドキュメント 1-3
- ドキュメント アップロード同期ジョブ 6-4
- ドキュメント データソース同期ジョブ 6-3
- ドキュメント同期ジョブ 6-3
- ドキュメント ビュー ファクト テーブル 5-5
- ドキュメント フォルダ マップ同期ジョブ 6-3
- ドキュメント レポート
  - アクセスの許可 4-7
- 概要 3-6
- トラフィック レポート 3-2
- トラブルシューティング A-3

## な

- ナレッジディレクトリ ビュー ファクト テーブル 5-5

## に

認証元同期ジョブ 6-3

## は

パーティション

アーカイブおよび復元のガイドライン 5-6

概要 4-7

プレビュー 4-8

バッファ キャッシュ (Oracle 設定) 5-4

パラメータ

定義 4-10

提供 4-12

名前の長さ 4-11

## ふ

ファクト テーブル

削除に関する警告 5-6

定義 5-2

提供 5-5

データ量の増加 5-2

命名規則 4-11

フィルタリング 3-11

部分強制同期 6-5

部分同期、定義 6-2

プロジェクト レポート 3-7

プロパティ同期ジョブ 6-3

## へ

ページ ビュー ファクト テーブル 5-5

ページ レポート 3-2

## ほ

訪問タイムアウト期間、設定 4-2

ポータル

クリーンアップ 3-11

同期 6-3

「ポータル ドキュメント関連データの表示」

機能 4-7

ポートレット

ゲートウェイされたリンク 3-12

ビュー データの制限 5-3

ポートレット、Analytics ポートレットも参照

ポートレット使用率ファクト テーブル 5-5

ポートレット使用率レポート

概要 3-4

正確性の向上 3-12

ポートレット テンプレート、Analytics ポート

レット テンプレートを参照

ポートレット同期ジョブ 6-3

ポートレット ビュー

取得の設定 4-4

ファクト テーブル 5-5

ポートレット ビュー レポート 3-5

ホスト解決ジョブ 6-4

## ま

マイ ページ、ゲスト ユーザーのアクセスの管理 3-9

## め

メッセージ投稿同期ジョブ 6-4

## ゆ

ユーザー アクセス、管理 3-9

「ユーザー詳細レポートのエクスポート」機能 4-6

ユーザー状態更新ジョブ 6-4

ユーザー数レポート 3-2

ユーザー同期ジョブ 6-3

ユーザー プロパティ

インポートする理由 3-12

スーパー ユーザー役割への割り当て 4-5

ユーザー プロパティ同期ジョブ 6-3

ユーザー レベルのデータ、アクセスの許可 4-6

ユーザー ログイン ファクト テーブル 5-5

## れ

レポート

管理アクセスの管理 3-9

最大限の活用 3-10

説明 3-1

## ろ

ログ A-2

ログイン数レポート 3-2

